

2月4日 ヨハネによる福音書5章1～18節

説教題：「主は安息日にも働く」

今日の個所でイエス様は、安息日ではありますが重い病気で苦しんでいる人を癒し、罪のゆるしを宣言しています。エルサレム近くの池が病人をいやす恵みを持っている、という伝承を持っており、そのような伝説にすぎないような病人たちが藁にも縋る思いでこの池に集まっていました。その病人に対して、イエス様が癒しを行い赦しを宣言したことによって、ユダヤ人たちの怒りを買うことになりました。

安息日に癒しを行えば律法違反になることをイエス様はよく知っていました。そしてゆるしの宣言が神様への冒瀆とみなされることも知っていました。それでもイエス様は人々を癒すことを止めることはありませんでした。痛みを持つ人を癒し、病を抱える人を赦し、動かない手や足を動くようにして、神様の愛を示し続けました。それが安息日であったとしても、自分の命を惜しむのではなく、神様の愛を実現するために奇跡を行い続けたのです。

だからこそ、私たちの人生の中で、「神様が共にいない時」というものは存在しません。私たちはすべての時を、神様と共に歩むことが出来て、すべての祈りが神様に聞き届けられていると信じることが出来るのです。

私たちにとっての安息日とは、一般的に礼拝の日だと言われることが多いのですが、私個人としては「祈り」がユダヤ教の安息日を継承したものなのだと思います。祈っているときは、私たちは神様と一对一の対話を行っています。基本的な姿勢は目を閉じて、手を組んで行います。祈りの言葉を口に出すこともあれば出さないこともあります。しかしほとんどの祈りにおいて、「祈り以外のことを何もしない」というのが基本姿勢となっています。ただ神様のことを思い、今起きていることを思い、私たちが何かをすることでそれを解決するのではなく、神様がその力を持っていることを心の底から信じて、神様の御手に委ねる。その祈りにおいて、私たちは安息の時を持つことが出来るのです。

しかし、「安息日を守ったから大丈夫」「祈ったから大丈夫」とそこで足を止めてしまうことを、神様は望んでいません。私たちに課せられた掟は、神様を愛し、隣人を愛するという、この足で歩み、この手で何かをなすために定められた掟なのです。神様は、イエス様は、安息日も私たちと共にいて、いつまでも私たちのために働き続けてくれています。私たちもまた、その愛に応えて、この世において神様の愛を実現するものとして、神様の平和をこの出に表すものとして用いられてゆくのです。神様は、そのように働く私たちのことをいつも目を向けてくれています。その神様の働きをいつも感じながら、今週一週間の、これからの歩みとともに進めていきましょう。

今日の説教箇所：ヨハネによる福音書5章1～18節

- ・1:その後、ユダヤ人の祭りがあったので、イエスはエルサレムに上られた。エルサレムには羊の門の傍らに、ヘブライ語で「ベトザタ」と呼ばれる池があり、そこには五つの回廊があった。この回廊には、病気の人、目の見えない人、足の不自由な人、体の麻痺した人などが、大勢横たわっていた。そして、そこに三十八年も病気で苦しんでいる人がいた。イエスは、その人が横たわっているのを見、また、もう長い間病気であるのを知って、「良くなりたくないか」と言われた。病人は答えた。「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、ほかの人が先に降りて行くのです。」イエスは言われた。「起き上がりなさい。床を担いで歩きなさい。」すると、その人はすぐに良くなって、床を担いで歩きだした。その日は安息日であった。

- ・10:そこで、ユダヤ人たちは病気をいやしていただいた人に言った。「今日は安息日だ。だから床を担ぐことは、律法で許されていない。」しかし、その人は、「わたしをいやしてくださった方が、『床を担いで歩きなさい』と言われたのです」と答えた。彼らは、「お前に『床を担いで歩きなさい』と言ったのはだれだ」と尋ねた。しかし、病気をいやしていただいた人は、それがだれであるか知らなかった。イエスは、群衆がそこにいる間に、立ち去られたからである。その後、イエスは、神殿の境内でこの人に出会って言われた。「あなたは良くなったのだ。もう、罪を犯してはいけない。さもないと、もっと悪いことが起こるかもしれない。」この人は立ち去って、自分をいやしたのはイエスだと、ユダヤ人たちに知らせた。そのために、ユダヤ人たちはイエスを迫害し始めた。イエスが、安息日にこのようなことをしておられたからである。イエスはお答えになった。「わたしの父は今もなお働いておられる。だから、わたしも働くのだ。」このために、ユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとねらうようになった。イエスが安息日を破るだけでなく、神を御自分の父と呼んで、御自身を神と等しい者とされたからである。